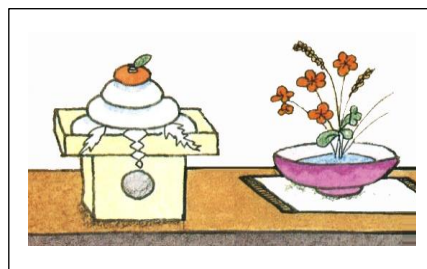


## 2021 広場（101号記念） 年賀のご挨拶

ぼーぐなん広場にお立ち寄りの皆様、

明けましておめでとうございます



引き続き皆様とご一緒に小学校英語について  
学んでいくことができますことを、心から感謝しております  
本年も どうぞよろしくお願い申し上げます

~~~~~2020 年を振り返ってみました~~~~~

コロナの情報が入り始めた 2020 年の年が明けて、罹患者が増えていく不安の中突然の休校となり、入学式も行えず、子どもの姿が見えない学校で学習環境を守りたいと手を尽くし、6 月半ばに分散登校が始まっても夏休みを短縮し、子どもたちが楽しみにしていた学校行事を見合わせる、など異常づくめの一年間でした。それでも英語が教科になった高学年では新しい教科書に併せてデジタル教科書も届いて、授業が進められてきました。

こんな大波をかぶらなければ手を付けなかったかもしれない新しい経験が一つあります。私の手には負えないと決めていた Zoom に手を染めたのです。まず友人のお子さんと英語で遊びました。次に白川郷学園で遠隔授業を参観し、子どもたちに Where are you? と聞かれて I am in Tokyo! と答え、自宅でタブレットに向かっている子どもたちの「おー！」という声に感動しました。更に、機器の扱いに慣れてくると、授業参観・飛び込み授業・先生方との研修協議などに参加するために、多摩川を渡り、アルプスを越えて移動することを覚えました。この緊急事態に各学会も Zoom 開催が増えてきたので、今まで地理的に参加を見送っていた会場にもいそいそと出かけて、数年ぶりに懐かしい友人と声を交わすこともできるようになりました。コロナのお陰とは絶対に言いたくないのですが、2020 年の収穫と言えます。

*English in Action* の online 化を 2016 年 3 月までに終えていたので、その 4 月から Online 版をテキストと併用して対面授業に導入されていたカリタス小学校では、休校期間が長引くと、すぐに遠隔授業を開始されました。外国語科だけでなく他教科も含めて、安定した授業を継続することができたのです。その成果を（一財）語学教育研究所の講習（アラカルト）で相原美香先生にご紹介いただきました。（※同校のここまでに至る経緯については、麻田美晴先生に「広場 100 号」で詳しくご紹介いただいております。[ここ](#)をクリックしてお読みいただけます。）また、一昨年導入した学習履歴を活用すると、子どもの学習状況を

見て個人指導ができるようになりましたし、教科書による授業に Online 版も利用される地域では、各小学校の活用状況を基に先生方と話し合うこともできるようになりました。

コロナ禍で休校状態が長引いている間に露わになった教育格差を埋めるために GIGA School 構想の前倒しで各学校にタブレット一人一台配布が始まり、デジタル教科書の利用も着々と進んでいます。子どもたちは機器にすぐに慣れて、タブレットを抱えながら友だちと話し合い、自ら調べたり撮った写真を見せ合ったりしながら話し合う様子も参観できました。これから Wi-Fi 環境を整えて…という地域格差も 2021 年度開始までには解消されることが期待されます。英語科だけでなく各教科の教科書のデジタル化も進んでいて、子どもたちはランドセルにタブレット一台だけ入れて通学し、宿題や予習復習はタブレットでするようになる、ということも聞こえてきます。英語教育で言われる 5 領域の習熟を支える 4 技能の指導について、授業づくりがどのように変わっていくのか注目する必要があります。ICT 環境の整備は機器に関しても日進月歩で追いつくのが大変ですが、IT 関連の学会の情報も見逃すことなく、アンテナを高く掲げておきたいと思っています。

このように、ICT 環境が整備される状況で、ゆるがせにできないのは授業のあり方について検討を続けることではないでしょうか。授業の最初に挨拶を交わした瞬間から「聞くこと」「話すこと〈やり取り〉」が始まります。そのまま指導の目標表現によるやり取りが始まると、子どもは聞き取れると、英語で答えようとします。やり取りが続いている間に、その英文の語順に気づきやすいようにレイアウトして見えるようにしておく、英語のルールへの気づきに繋がります。これが「読むこと」の始まりとなり、やり取りを繰り返すうちに「書くこと」への意欲が育ち、安定した英語習得につなげることができると考えています。*English in Action* を制作するとき心がけたのはこの点でした。子どもの学びを支え、友だちに聞いてもらったり読んでもらったりする「発表力」につなげようとしたのです。

指導技術を高め、子どもの学びを深めるためには教材研究も欠かせません。新しく使い始めた教科書を授業でどのように使いこなせばよいか、教科書のページに広がるイラストと文字を子ども目線で見ながら音読し、それと共通する表現を *English in Action Online* の中に見つけて、子どもの学びを補強する方法を今年も考え続けたいと思います。また、英語でのやり取りを楽しみながら学べるスライド作りも続ける予定です。目の前に子どもがいるつもりで考え続けると、楽しい作業になるに違いありません。

教科化 2 年目の年、一人一台タブレット！の環境を活かして、これからも皆様とお話し合いを Zoom 広場で続けられたら嬉しいと思っています。懲りずにお付き合いいただけますように、お願い申し上げます。

久埜 百合